

ほうからそういった集会施設とか、1年間通して常に利用したいというような、域学連携で使わないときに使いたいの、いちいち鍵を借りに行くのが面倒だということであれば、そういう地区からの要望があれば、それはまた検討したいと思いますし、今のところそういう話があってありませんので。

○議長（初村 久藏君） これで、島居真吾君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は午後1時5分からといたします。

午前11時55分休憩

午後1時05分再開

○副議長（黒田 昭雄君） 再開します。

報告します。初村議長から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、こんにちは。会派未来改革の糸瀬雅之でございます。副議長が正面で、何か少し、初めてでございますので、私も緊張せず一般質問をしたいと思っております。よろしく申し上げます。

お昼からの一般質問でありますので、皆さん、眠さが襲う時間帯ではございますが、私の一般質問に付き合ってくださいと思っています。

12月に入り、今年も残り少なくなりましたが、つい先日まではサッカー日本代表が日本国内、そしてまた対馬でも非常に盛り上がりを見せてくれました。惜しくも、クロアチアにPKの末に敗れはいたしましたが、連日、元気を与えてくれました。なかなかベスト8の壁は、大変厳しくございましたが、また4年後に持ち越しとなりましたが、精一杯戦ってくれました。本当にお疲れさまでございました。

それでは、通告をしておりましたに2項目3点について、一般質問をさせていただきます。

まず、令和5年度の対馬市の子供施策の予算編成についてでございますが、長崎県の大石知事は、今年9月12日の県議会の所信表明で、来年23年度予算で、子供施策が最重要テーマで予算編成に取り組むと明らかにされました。安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる環境づくりへの支援、子供の教育環境の整備や関連施策の充実、強化に全力を注ぐと明言をされましたが、対馬市において来年度予算に向けた重点的な子供施策は何か、答弁を求めます。

次に、一般質問に対する進捗状況について、まず1点目ですが、私が昨年9月の定例会の際に、企業誘致に関する質問に対しまして、比田勝市長の答弁の中で、将来的に対馬市内に高級宿泊施設の誘致を図る考えを示され、「今後の対馬観光のブランド化に向けた必須条件になるため、あ

らゆるチャンネルを使って誘致を図りたい」と答弁をされました。その後の具体的な進捗状況はどのようになっているのか、答弁をお願いいたします。

次に、2点目は、ちょうど1年前の12月定例会で質問をさせていただきました。上県町千俵蒔の観光地の整備計画並びにアクセス道路の整備計画について、少し動きがあるのか、答弁のほどをお願いいたします。

以上、2項目、3点について、簡潔に答弁をよろしくをお願いいたします。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。初めに、令和5年度の対馬市の子供施策の予算編成についてでございますが、現在、予算編成方針に基づき、事務を進めているところでございます。

そのような中、大石県知事は9月12日に子供施策を県政の基軸に位置づけ、県政運営に臨むと所信を述べられました。また、11月25日の定例県議会では、子供の医療費助成について、現行の就学前の子供から18歳までの全ての子供に2023年度から拡大すると方針が示され、長崎県独自の助成制度を創設すると述べられました。

現在、対馬市における子供の医療費助成制度は、就学前児童については県から半額補助を受け助成を行い、小中学生については市独自に助成を行っています。

本市としましても、今回の県の新たな制度の創設を踏まえて、対象を高校生までに拡充し、さらに支給方法については、県が実施予定の償還払い方式から現物給付方式にすることで、子育て世帯への経済的負担軽減を図ってまいります。

次に、対馬市の令和5年度子供施策の主な内容でございます。

まず、1点目は、まだ仮称ではございますけれども、豊玉認定こども園建設事業でございます。

これは、「対馬市保育所配置計画」に基づき、老朽化に伴い、大がかりな改修が必要となる豊玉地区の保育施設を集約化し、新たに開設するもので、令和4年度からの継続事業であります。これに併せて、必要とする施設整備の改修及び施設備品の更新を順次行ってまいります。

2点目は、へき地保育所給食提供整備事業でございます。令和元年10月から幼児教育・保育の無償化の開始を受け、3歳以上児の保育料に併せ、認可保育所では副食費も無償化しております。へき地保育所への給食の提供は義務化されておりましたが、認可保育所利用世帯とのバランスを考慮し、給食の提供の実施に向けて整備を進めてまいります。

私としましては、国や県の動きを注視しながら、地域と事業者とともに子育て世帯の生活を下支えし、また多様化する子育て家庭に切れ目なくきめ細やかに対応するため、子育て支援の質の向上に力を注いでいるところでございます。

次に、2点目の一般質問に対する進捗状況についてでございますが、初めに、宿泊施設の誘致

につきましては、令和元年度に開業しました大型宿泊施設の誘致に成功しましたがけれども、令和元年7月の国際情勢の変化による韓国人観光客の激減、さらに令和2年2月以降の新型コロナウイルス感染症により、議員御承知のとおり、島内の経済は停滞し、その状況が慢性化しております。

令和4年10月以降は、徐々にではありますが回復へと向かいつつあります。第8波も懸念され、先行きは不透明な状況にあります。

このような状況に加え、原油や物価高騰等により、さらなる経済環境の悪化に直面しており、市では機会があるごとに誘致の打診を行っているところでございますが、まだ御期待に添えていない状況であります。

高級宿泊施設の誘致につきましては、富裕層の観光客がもたらす経済効果やPR効果に大きなメリットが期待され、昨年度策定しました「対馬市観光振興推進計画」の目標でもあります観光消費額の増加、観光満足度の向上につながる重要な取組の1つとして認識しております。

また、量から質へと対馬の観光ブランドを高めるためにも、高級な宿泊施設の必要性を痛感しております。

今後も、引き続き情報の収集等に努め、関係者の御協力、御支援をいただきながら、誘致に向けて取り組んでまいります。

次に、千俵蒔山の整備についてでございますが、佐護地域には野生生物保護センターを中心に佐護平野のバードウォッチング公園など、自然を学び、触れ合える施設をはじめ、棹崎公園、異国の見える丘展望台のように絶景が満喫できる施設が点在しております。

千俵蒔山は、全山が草原となった曲線的で優美な山であり、山頂では訪れる方が雄大な自然・景観を感じることができる観光スポットとして認識しております。

整備につきましては、前回の議員の質問で御回答させていただきましたが、市といたしましては、千俵蒔山はそのままの姿を維持することが重要と捉えております。そのため、佐護地域の方々の御協力をいただきながら、ヤマネコの住む佐護地域一帯を含め、千俵蒔山を自然公園として、今後も同様に維持・管理をしてまいりたいと考えております。

なお、千俵蒔山を含めた上県町エリアの観光地のみならず、上対馬町エリアの観光地と絡めた観光コンテンツの造成が可能かということなど、対馬の北部振興について、関係部署及び関係団体と協議を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。いつも、私の質問時間が少なくなるのですが、今日はまだ38分、市長、ございますので、ゆっくり質問、一問一答でしていきたいと

思います。

まず、子供の子育て施策についてでございますが、市長の答弁の中で、新たに今回、へき地保育所に給食を提供していこうという計画がされました。これは、やっぱり大変、保護者にとってはいいことではないかと思っております。

それで、今は長崎県のほうも、いろんな子供の施策について、大石知事も取り組もうという考えで、県は独自に今、言われたように18歳未満の全ての子供たちに医療費の無償化を考えているということと、あと、不妊治療に関わる費用の補助、そして医療的ケア児童を介護する家族の負担軽減措置も大石知事は掲げられておりました。

それで、対馬市も令和2年3月に対馬市子ども・子育て支援事業計画が策定されましたが、この中で、平成30年度にアンケート調査をされているんですが、これ4年か5年前でありますけれど、今、一番保護者が思うことは、アンケートの結果がこの20ページに書いてあったんですけども、その中で、安心して子育てができて子供が伸び伸びと育つために充実してほしいと思うことは何でしょうかということで、この結果として保育サービスの費用負担軽減、児童手当、子育てのために経済的支援の充実、これが60%近くで保護者の声が一番多く上がっていますが、この辺、対馬市として今の支援体制が十分かどうか、お答えを願います。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 保育サービス等の支援が十分であるかというようなことでございますけれども、市といたしましては、やはり子育ては重要施策の一環として大変重要と捉えておりますので、厳しい財源の中ではございますけれども、できる限りの子育てサービスは行ってまいりたい。

まして、今、議員のほうからも子供関係、特に子供がなかなか授からない方への医療費助成等につきましても、対馬市も昨年度ですか、一昨年度からですか、もう既に始めてはおります。

そういう形で、人口減少対策と併せて、この子育て施策を充実してまいりたいと思っております。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） そして、今度また、これは政府のほうなんですけど、来年度から新たな予算として出産準備金、これを創設して今年4月から12月までに出生された赤ちゃん、新生児に5万円。来年1月以降に妊娠、出産をされるお母さんには、妊娠をされた時点で妊娠届出時に5万円、それとあと、出産をされた後、出生届があった後に5万円という、合計で10万円、これを現金なりクーポンなりとして国のほうも、この方針をもうほぼ決定をされております。

対馬市としても、この予算というのは、来年度に向けてもちろん取り組まれると思いますが、市長、お考えをどうぞ。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） また、詳しい内容については、担当部長のほうから答えさせますけれども、今現在で聞いているところでは、今、議員がおっしゃられたように1人当たり10万円ということで、これ国の交付金と県、そして市も何%か、またそれは部長のほうで答弁すると思えますけれども、市も県もそれぞれの負担があるということでございますが実施してまいりたいというふうに考えております。

○副議長（黒田 昭雄君） 健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷 和孝君） 糸瀬議員のおっしゃるのは、出産・子育て応援交付金になろうかと思えます。この交付金は、国の令和4年度補正予算（第2号）が成立して、妊娠時から出産、子育てまで一貫した伴走型相談支援と、妊娠届出時、出生届出時を通して計10万円相当の応援ギフトが支給される経済的支援を一体として実施する事業でございます。

この交付金につきましては、実施要項や実施内容につきまして、まだはっきりしたことがなくて、県内の各市町も国の動向を注視している状況であり、分かり次第、本市でも早急に取組に向けて協議をしてまいりたいと思っております。

補助率につきましては、国が3分の2、県・市が6分の1ずつというふうに聞いております。

以上でございます。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） この制度は、子育て、出産に関わる費用の、人口減少の対策となるような制度と思えますので、ぜひ市も早めに、このような対策を予算で、国の動向を見ながら、来年3月にでも予算を計上できるようによろしく願いしときます。

それと、対馬市の出生数です。子供たちの出生数なんですけど、令和3年度の新生児の出生の数なんですけど、174人です。そして、これは過去3年を遡ってもあまり数字的には、平均して170人から多いところで200人まではいませんでした。大体百七、八十人の対馬に生まれてくる赤ちゃんの数でございますけども、そういった保護者の、やはり負担というのが、今から先、子育て世代の方には大変な、育って行けばいくわけですけども、今、対馬市内に独り親家庭、いわゆる母子家庭の人数は部長、何世帯ございますでしょうか。

○副議長（黒田 昭雄君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 独り親世帯の資料を持ち合わせておりませんので、申し訳ございません。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 独り親世帯、母子家庭の世帯なんですけど、部長、持ち合わせていなかったですか。独り親世帯が今、274世帯ございます。

そういったお母様方のいろんな支援金とか給付金とか、令和2年度からいろんな部分で支給は

されてきましたけれども、やはりコロナの影響というのは働くお母さんにとっては、子供がもしコロナにかかればお母さんは休まなければなりませんので、そういった部分を踏まえると、やはり給付金をもらっても、もっと苦しい状況では今、いるかとは思いますが。

それで、この人口減少対策として、やはり子供というのは、対馬で有した宝と比田勝市長もいっつも言っておられます。

それで、私の要望として、まず出産時の新生児のお祝い金、これやっぱり、1人目からでも、少しでも、対馬市が生まれてくる子供に対して出産のお祝い金の創設をする。そして物価高騰対策として、新生児の紙おむつ、それからミルク、これの補助金。これ、1年ないし2年は紙おむつをやはり使います。それを少しでも毎月、生まれてくる子供に対しては、そういった補助金を対馬市のほうも考えていただければいいかなと思います。

それと、やっぱり独り親家庭は小学校入学時、中学校・高校入学時、大変お金が必要でございませぬ。それで、小学校、例えば入学時にランドセル、これの補助金を少しでもできないか。今、ランドセルは昔と違いまして6万から8万円、高いもので10万円いたします。やはり、そういった補助金を少しでも独り親家庭に対してできないか。

市長のそこら辺のお考えはどうか。答弁のほどお願いします。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この出産祝い金、そしてまた新生児等への紙おむつ、そしてまたミルク等への支援としての補助金等ということでもありますけれども、これはちょっとまた、果たしてどのくらいの補助金等になるのか、今、私もここで、全然、試算もしておりませぬので、それをどうするかということは申し上げられませぬけれども、ここは今後の試算、そして検討課題とさせていただきますというふうに思っています。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、市長は検討課題とさせていただきますということではございましたが、やはり対馬市は今、子供を含めての人口減少が大変な問題になっております。

それで、やはり移住者にしてもIターン者にしても、Uターン者にしても、対馬市が受入れ態勢、子供から子育てから、受入れの態勢がどうか。そこら辺をIターン者にしてもUターン者にしても、ネット関係とかを見られてそういうふうな判断をされるわけです。五島とか壱岐に比べて、対馬市もそういった他の自治体に負けない政策を今後、考えていくべきだと思います。

それで、ほかの一般財源でも少し、今までは国費を使つての補助金です。一般財源を来年度2年ぐらひは使つてでも子育て施策に力を入れてみてはどうかと思つておりますが、比田勝市長、どうでしょうか。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、U・Iターン者等を増やす、この移住施策等につきましては、対馬市といたしましても子供連れのUターン者、Iターン者についても、かなりの補助要綱の中で示しております。

そういう形では、決して五島とか壱岐等には引けを取らないのではないかなというふうに私自身、考えております。

そしてまた、今後、どのようなことで施策を組み立てていくかということにつきましては、確かにこれはなかなか国の交付金、補助金等はございませんので、市の単費関係で手当していくしかないというようなことであります。

いつも言いますけど、財源が、特にこの5年度、6年度については大型公共事業等もございまして、大変厳しい中でございますけれども、どの程度のそういった計画ができるかということについては、また担当部署とも協議をしてみたいというふうに思います。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 協議をすると市長のほうも言われています。大変、期待をしております。

それと、やっぱりふるさと納税。ふるさと納税を今、昨日、小島議員の方からも、このふるさと納税を増額することによって少し財源を子供の施策のほうに回せるんじゃないか。そのように、私は自分なりに思っておりますので、このふるさと納税のほうも力を入れていただいて、子供の施策のほうにも少し回せるかなと思っておりますので、そこら辺、よろしく願いいたします。

次に、これは保育所関係なんですけど、今、テレビ等で静岡県裾野市のこども園の保育さんによる不適切な保育による虐待事件が報道されております。

対馬市内の保育所、こども園、そういったことは私はないと思っておりますが、そこら辺の指導や、どのような取組を今後されていくのか。これは、市長が保育所関係のほうで答弁をお願いいたします。

○副議長（黒田 昭雄君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） お答えします。公立の保育所に対しましては、以前から虐待防止マニュアルなるものを配付して、職員の意識の徹底を図っております。

それで、今回の静岡県裾野市の事件を受けまして、昨日、改めまして保育所職員に対して注意喚起の文書を発出したところでございます。

以上です。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今朝ですか、テレビでまた見ていましたら、やっぱりそういった対策として、保育サポートカメラというのはやっぱり設置、御存じでしたか。そういったのを

けて、監視カメラじゃないけどそういったのをほかの自治体ではされているところもありました。

そこら辺は、まだ、すぐさあということはないけれども、今後のやっぱりそういう対策として、対馬の先生方は本当に優しい先生方ばかりでいますので、そこら辺はまた、注意等をさせていただきます。

大変、子育て世代に対しましては、財源も厳しいかもしれませんが、できるだけ市長も私たちが、また市民が納得のいく、来年度子供の、子育ての施策を検討されて、対馬は全国でも一番子育てがしやすい島を目指して頑張ってください、取り組んでいただきたいと思います。

次に、企業誘致のほうに移りたいと思いますが、やはり大変厳しいコロナ禍でございますが、これ1年間ないしこの1年間で、企業誘致に向けて何社ほどアポを取られて、具体的にまだ場所等、企業誘致に対して選定等はまだ行ってないのか、そこら辺を答弁をお願いします。

○副議長（黒田 昭雄君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 4年度につきましては、コロナ禍ということもありまして、企業等に対する直接の訪問とかは行っておりません。

以上です。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 企業に関しては、アポはゼロということですね。

コロナ禍と言われましたけど、コロナ禍でもございますが、今、リモートワークがございます。村井部長。リモートワーク等でやはりどこか企業誘致に向けて、市長はあらゆるチャンネルを使うと言われていました。どのようなチャンネルなのか、よろしくをお願いします。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 直接の名前をここで公表するのは控えますけれども、観光関係の方から実は紹介を受けている件が1件ございます。

そしてまた、私も、先月も今、テレビ等で本当有名になっておる岩本初恵さんですか、「愛しと一と」とおっしゃる方が対馬のほうにお見えになって、市役所に来ていただいたんですけど、岩本社長さんとちょっと、こういう形で対馬の自然のすばらしさを申し述べた上で、ぜひ対馬のほうにそういった高級ホテル等の計画があればお願いをしたいということで、ちょっと私からお願いしたら、あの方はもともとが唐津出身らしくて、もしそうなれば先に唐津のほうにとかいうような、そういったお話もされてありました。

そういうふうにして、私、あちこちで事あるごとに、まず、そういった高級ホテル等を誘致を進めておりますということで、お願いをまず、今、しているところであります。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 高級ホテルといいますと、もし、この対馬に例えば天皇陛下が来



たい、総理大臣、国賓級を迎え入れなきゃできないときが来るかもしれませんので、やはりそういった方々を泊める。五島や壱岐はもう既に出来上がっております。対馬も、一步、二歩、三歩、遅れております。

ぜひ、ここら辺で、早めにどこか場所を選定して、来てもらうのは本当に大変でしょうけれども、今、全国的に星野リゾートさんとか、そういった高級宿泊施設を手がけていますので、そういった会社へもアポを取ってみてはどうかと私は思っています。

それと、企業誘致の条例がございます。企業誘致条例。この企業誘致条例を少し見直すべきに來ていると思います。

企業誘致条例を見ますと、投下固定資産を2,700万円と出ております。そして、新規雇員5名以上とか、やはりこの投下固定資産2,700万円を撤廃して、もうあらゆる企業に私は来てもらってもいいじゃないかと、そして3年間の固定資産税の免除、そこら辺は十分して欲しいと思います。どうでしょうか。

そういった固定資産の条例の改正です。条例の改正をしていかないと、この2,700万にこだわっていますとやっぱり来たい企業もできませんので、その辺どうでしょうか。

○副議長（黒田 昭雄君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 糸瀬議員がおっしゃいますように、時代も流れておりまして、我々が今、主にやっておりますのは、まずは製造業とそれから旅館業関係の関連、それからソフトウェア業、それからもう1点、インターネット等のサービス業ということになりますけれども、この投下固定資産額の2,700万といたしますのは、基本的に企業誘致、特にここで言うのは製造業と旅館業等の観光関連産業について2,700万円以上という取決めをさせていただいてますけれども、基本的に島外から企業が入っていただくということは、ある程度の規模で、ある程度、母体がしっかりなされた優良企業ということもありますし、そういった大きな製造業とか、旅館業とかということで、雇用も生んでいただければいいと思います。

そういうことも含めると、長期間島内で事業を展開していただいて、雇用も生んでいただいているということがあるので、そういうことも含めて2,700万円以上の投下資産額というふうになりますので、これを当初3年間、固定資産税を減免するという。そして、その後は優良企業として経営に頑張っていただいて、儲かっていただくことも含めて、そして固定資産税を市にも落としていただくと、そういうふうなことも必要でございますので、そういった意味でこの投下資産2,700万円以上というのは、これは我々としては条例上、生かしておくべきことではないかと思っております。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） これ、2,700万というのは条例上、残しておいたほうがよろ

しいんですか。じゃあ、これで今、どれくらいの、東横イン関係が主になると思いますが、そのほか、この企業誘致条例を使って、ここ数年、企業誘致に成功した例はありますか。

○副議長（黒田 昭雄君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 近年は、平成26年度から平成29年度までの、主に今、議員おっしゃいましたように、大手の宿泊業数社で企業指定を行いまして、現状、運営をさせていただいておる宿関係で4社ということになります。

30年度以降は、誘致は行われておりません。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 分かりました。やはり、この企業誘致に関しては、インターネット環境、そういったのも対馬市はまだまだ遅れていますので、そこら辺からがまず第一だと思っております。それをやらないと、やはり企業誘致も難しいという結果だと思っております。

やはり、この廃校も、対馬島内、学校等の統合によって学校等の廃校舎、この辺も企業誘致にも積極的に、少しは動いてあると思いますので、そういった廃校関係も利用して企業誘致を進めていってほしいと思います。

やはりこれ、市長も企業誘致に関して、公務で大変忙しいかもしれませんがどうですか、副市長が先頭に立って動いていってはどうでしょうか、副市長。企業誘致に関して、決意表明か何かしていただけないでしょうか。副市長、どうでしょうか。

○副議長（黒田 昭雄君） 副市長、俵輝孝君。

○副市長（俵 輝孝君） 急に振られてびっくりしておりますが、やはり私たちも、あらゆる機会を捉えているんな場面でそういう話はするんですけども、やはりこの決定というか、トップと副市長であれば、随分もう話の相手の対応も違うし、やはりそこは副市長という立場よりは、立場としてはいろいろと話は進めていきたいと思いますが、やはりトップという市長のほう各企業に対しては対応が違ってくるというふうに私は思います。

以上です。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 副市長、遠慮されなくていいですよ。市長だけじゃなくて副市長、頑張ってください。

そうしたら、次に千俵蒔のほうに続いてしたいと思いますが、何度もほかの議員さんあたりも言われていますが、市長はなかなか前向きな答えが出てきません。以前は、市長、本当は、千俵蒔山は観光地の整備をやりたかったんですよ、市長。

○副議長（黒田 昭雄君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身、この千俵蒔山は本当に大変すばらしい山だという認識をして

おります。

それで、以前からあそこをまず整備する関係で、建設部関係の職員と協議をさせていただきました。そうしたところ、あそこに今の道路関係で道を改良してするときに、全体的に始点から終点まで8%からもう10%ぐらいの勾配がどうしても必要だというようなことで、ちょっと改良は難しい。まして、使える補助金等がないということが2つ目です。

そうなりますと、何らかの起債を活用せんばいかんということで、この起債の活用が今、他の事業にかなり行っておりますので、目いっぱい市は過疎債等も含めて使っておりますので、なかなかこの整備に着手するのが難しいということでございます。

ただし、私といたしましては、今現在、その現場用のトイレは1基、もう据えているということでございますが、できたら先に、豆殿の豆殿崎公園と志越地区の上の道路横に設置しております、トワイレあたりですとあまり電気そして水等を必要といたしませんので、まずここからですね何とかして整備ができないものかということ今、検討を重ねているところであります。

○副議長（黒田 昭雄君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） トワイレの話は、市長、1年前にもう聞きました。それは、それからどうなってるのかというのが今日の私の質問でございます。いいでしょうか。

ですから、やはり大変難しい場所ではありますが、道路改良となると大変予算も絡んでくる。用地の買収も絡んできます。

私は、ここでまた提案なんですけど、今、佐須奈方面から来たときに井口浜の海水浴場がございます。例えば、あそこは韓国の海を見ながらロープウェイで山頂まで上がる。そういった構想を私は考えているんですけど、道を改良するよりも井口浜海水浴場付近から風車のほうに向かってロープウェイをかける。そちらのほうは予算的にはちょっとかからないんじゃないかなど。私も素人ですので、少し、村井部長、そこら辺も検討して、私と一緒に現地を立ち会っていただけますか。今後、どうでしょうか。

○副議長（黒田 昭雄君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 市長のほうで答弁で最後、申しましたように、千俵蔭山も含めた、大きく上対馬エリアの観光振興ということで今後、意見交換を関係部署ともしていこうということにしております。

我々は、観光施設を預かる、島内全体を預かっております。そういった中でも、中対馬、上対馬とそれぞれ振興部エリアで構想とか今後は練っておられる、また練っていかれるということもありますので、私だけではございませんで、そういったところは議員さんも一緒になって意見交換をしたりとか、現地のそういう構想を話すとかということではできるんじゃないかと思っております。

以上です。

○副議長（黒田 昭雄君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 分かりました。やはり今、対馬、この千俵蒔山だけに限らず、島内各地、様々な観光地がございます。

観光客を今後、受け入れる際、対馬市はやはりまだまだ観光地の整備、トイレにしてもそうです。進入路の道路等の土砂や木の伐採等を含めて、観光地の整備がまだまだ行き届いておりませんので、そこら辺をもう一度チェックをしていただいて、今後、韓国の観光客とか、日本国内の観光客をまず受け入れるのであれば、自信を持って観光地はここです、どうぞ来てくださいというようなそのような気持ちで行かないと、やはりお客さんは逃げます。

私はそれを言って、私の質問を終わらせたいと思います。ありがとうございました。

○副議長（黒田 昭雄君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○副議長（黒田 昭雄君） 暫時休憩します。再開は2時10分からとします。

午後1時56分休憩

午後2時10分再開

○副議長（黒田 昭雄君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 16番、対政会、大浦孝司でございます。

今回は、私、長い議員生活の中で、ちょっと病み上がりで元気がございません。しかし、考えれば、力よりは軽く話を淡々としてみたい、このように思っております。

今回は、対馬市合併の前の難しい問題、それから合併後の最初の議員の皆様がおったときの問題、このことを新しい議員の皆様はよく聞いていただいて、何があったか、どういうふうなことを話しをしているか、ここらをよくよく聞いていただきたいとかように思っております。

それでは、2点ほど、通告に従い、市政一般について質問を行います。

今議会の初日、産業建設常任委員長より、所管事務調査報告による佐須土地改良区の要望についての報告がございましたが、市長に、このことについてさらに提言を求め、御意見を賜りたいと思っております。

話の内容に入る前に、佐須の鉱山の経緯について少々触れてみたいと思います。

今から1300年前、白鳳3年、西暦674年、我が国最初の銀の生産がこの地で行われたと、このようなことが記載されております。その後、幕末まで鉱業活動は継続され、その間、朝廷、藩主、幕府の直轄事業としてこれが運営されていたとのことであります。その後、明治以降は多数の利権者で分散所有され、民営のもと、亜鉛の採掘が主体となり、鉱石は制限するため、ベル